

まき網漁業 乗組員大募集

—海の上では、あんたも家族だ—

大島漁業協同組合青壮年部

宮本 俊久

三浦 善幸

1. 地域の概況

大島村は、福岡県福岡市と北九州市のほぼ中間にあたる宗像郡玄海町の北西約6kmの玄界灘に浮かぶ県内最大の島です。近海は水産資源が豊富な好漁場となっており、昔から漁業が盛んで、島の人口990人のうち約3分の2が漁業で生計を立てている典型的な漁業の島です。

2. 漁業の概況

私たちが所属する大島漁協は、組合員数190名（正組合員175名、准組合員15名）で、主な漁業種類はまき網、刺網、釣り、採介等です。平成9年度の生産量は2,070トン、生産額は13億4千万円でした。

3. 研究グループの組織と運営

私たち大島漁協の青壮年部には60名が所属しています。青壮年部の主な活動としては、漁場クリーンアップ作戦の実施、漁港内の整備、運動会や祭り等各種イベントへの参加、花嫁対策事業等があります。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

近年の漁業は後継者の減少や高齢化が全国的な問題となっています。大島においても例外ではなく、特に漁協生産額の約6割を占め大島の主幹漁業となっている中型まき網にその影響が出ていました。

大島には常時3統の中型まき網船団があり、その乗組員数は1統あたり28人程度を必要としています。しかし、近年では後継者不足により、3～4人少ない24～25人で操業をし、さらに乗組員の高齢化も伴って思うような操業が出来なくなってきていました。

このような中、乗組員の間で「このままでは漁業の存続に関わる」との危機感も出始めたため、まき網の青壮年を中心に”緊急！まき網乗組員対策”を開始しました。

5. 研究・実践活動状況及び成果

まずはじめに、漁協に相談を持ちかけ対策を考えました。他県の事例等を調べた結果、同じような問題を抱え外国人を雇ったことのある長崎県の生月島に視察へ行くことになりました。しかし、次のような問題があり、外国人を雇うことは断念しました。

- ①言葉の問題があり1年ほどの語学研修が必要。
- ②上記の語学研修期間を含めて2年間しか雇えない。

そこで次に漁連に相談をしたところ、全国的な就職情報誌（UターンIターンピーニング）で国内から漁業従事者を募集する方法があることが分かりました。しかし、この情報誌を活用するにあたり、その資金をどうするのか、応募者の給料や住宅はどうするのか等の問題点が生じました。それに対し、資金面に関しては大島村の基幹産業である漁業を維持し、新しく人を迎え入れることは島おこしにもつながるという理解を得られ、村の補助を受けられるようになりました。給料は、今までは固定給が17万5千円でしたが、これでは人は集まらないという意見が出たため、20万円に引き上げました。また、住宅については、離島のため民間アパートがなく、船頭が縁故をたよって空家を探したり、村と協議して村営住宅を優先的に利用できるようにして確保しました。

その他、これまでの組合員資格の内規では「1年以上の漁業経験で准組合員の資格を獲得し、その後10年で正組合員になることができる」となっていたものを、「1年以上の経験で准組合員となり、その後5年で正組合員になることができる」とし、より短期間で正組合員資格を獲得できるように変更しました。そうすることでいずれは独立して漁業を営むこともできるという道を作りました。

これらの問題を解決して、いよいよ平成9年1月末に募集要項（表1）を雑誌に掲載しました。また、2月4～5日には東京で説明会も実施しました。この説明会には2日間で30名が来場し、他に10名ほどの問い合わせもありました。

表1 募集要項

職 種	漁師
仕事内容	網船に乗船し、主に網のまき上げや積み込み作業を行う。 ※まき網漁ができなくなる1～4月は、所属した船団の個人の漁を手伝うことになるが、その間も給与は支給される。
資 格	学歴・経験不問、18～50歳くらいまで
勤 務 地	福岡県宗像郡大島村
勤務時間	日没から夜明けまで（季節によって異なるが、拘束時間は10～12時間、実働時間は3～5時間）
給 与	固定給20万円+歩合給制 ※歩合給は水揚金額に応じて支給
休 漁 日	市場が休みになる日曜・祝日の前日と月夜（満月前後の5日間） シケの日 ※平均出漁日数は12～13日
休 暇	年末年始、夏季、慶弔
待 遇	賞与年1回、船員保険（健康保険・厚生年金・労災）

その後面接を行い、第一に積極性・やる気を問いました。次に、できるだけ出身地が遠くで20～30代の妻帯者・子連れの方に来てもらえたらいいと考えていました。これは、島の活性化にもつながるし、近くの人だとすぐに帰ってしまうのではという不安もあったからです。また、漁業の経験については特に問いませんでした。

以上のことを基準に10名を採用しました。現在までに3名が家庭の事情等でやめました。この募集のことをテレビや新聞で大きく取り上げていただいたおかげで今でも募集

に関する問い合わせが続いており、新たに3名を採用することができました。後から採用した方については、最初に採用したときの反省点をふまえて1週間から1ヶ月ほど体験的にまき網漁船に乗り組んでもらい、その後正式に採用を決定しました。

結局、現在は10名が大島に住み込んでまき網漁業に従事しています。年齢構成、出身地、前職は表2のとおりです。20～30代の方、出身地の遠い方を多く採用することができました。全員、前職はサラリーマンで、漁業経験者はいませんでした。

表2 採用者の概要

年齢構成 (H11.1現在)

10代	1人
20代	4人
30代	1人
40代	1人
50代	3人
計	10人

出身地

北海道	2人
東京	3人
静岡	1人
京都	1人
福岡	2人
長崎	1人
計	10人

前職

電気工業	3人
サービス業	6人
学卒	1人
計	10人

現在、採用者には5～12月はまき網漁船（主に網船）に乗り組み、まき網の禁漁期間中は、船頭さんが底刺網を営んでいるため、それに乗り組んでもらっています。

また、妻帯者については、閉鎖的にならず1日も早く地域にとけ込んでもらえるように、奥さんに出漁前の食事の準備を手伝ってもらっています。

採用してから約2年が経過しましたが、以前に比べまき網乗組員一人一人の負担が軽くなり、1日の操業回数も増加しました。また、若いやる気のある方が来てくれたおかげで現場には活気が満ちあふれ、さらには、採用者とその家族をあわせて15名が大島の住人となり、島の活性化にもつながっています。

～ 新規採用者のはなし～

私は、以前は福岡市内でイベントプロデュースの仕事をしていました。仕事自体は、自分が好きで始めた仕事なので、それなりに充実し、楽しくもありました。しかし、いつの間にか都会の時間の流れに違和感を感じたり、仕事が会社との年間契約という形で、いつまで続けられるか分からないということもあり、少しずつ転職を考えるようになりました。

以前から海の近くに住み、海の仕事をやりたいという希望を持っていたので、漁師の仕事を探していましたが、職安や就職情報誌などではなかなか見つけられず、あきらめかけていました。そうした時、前にテレビで見た記憶のあった大島漁協に連絡を取ったところ、面接の話をいただき、給与や休日、保険、住宅の斡旋など条件が良く、また何よりもやりたかった漁師になれるということで、昨年9月からまき網船団の網船に乗せていただくことになりました。

最初は魚のにおいや船酔い、島の方言や漁師ならではの専門用語に苦労しましたが、そ

れも少しずつ慣れていきました。

私は漁業に関して何の知識もなくこの仕事に飛び込んだので、漠然と「ハードなんだろうな」ぐらいにしか思っていませんでした。実際、網の手入れは覚えなないといけないし、沖に出る日が続くと体力的にも非常にきついです。しかし、大漁の時の感激は何ともいえ、初めて網いっぱいアジが入ったのを見たときは、興奮して鳥肌が立ったほどでした。

生活面では、収入が以前より減ったので余裕のある生活とまではいきませんが、都会に比べて家賃や生活費などが安いので、十分やっていくことはできます。また、船団の方は皆、何も知らない私を温かく迎えてくれましたし、思っていたより若い方が多いので、仕事以外の時も気軽に付き合ってもらっています。

私事ですが、昨年島に移って来るのをきっかけに結婚して、現在妻と二人で生活しています。妻も出漁前の夕食の準備に参加させていただいており、一緒に働いている方々に島での生活の仕方などを教えていただいているみたいで、大変助かっています。ただ、漁に出ないときや夕食準備のないシーズンもあるので、その時に女性が働けるところが島の中にあれば助かるなと思います。

漁師という職業は、一般の人が就職・転職を考えるとときの選択肢にはあまり挙がらないと思います。一般的に3K（きつい、汚い、危険）の仕事で、収入が不安定、排他的な社会と認識されているようです。当然受け入れる側、入っていく側双方の歩み寄りが必要ではありますが、私のような素人でもなんとかやっていくことができるので、決して非現実的な選択肢ではないと言えます。これから就職・転職を考える人が、もっと漁業に興味を持ってくれたらと思います。

私は漁師を始めて半年なので、まだまだ漁業について知らないことが多いですが、これからいろいろなことを吸収して、早く一人前の漁師として認められるようになりたいと思います。

6. 波及効果

一番の波及効果は、今回の募集の件や採用後の島での生活の様子等がテレビや新聞で紹介され、今だに漁業者になりたいとの電話がかかってくることです。

また、今回の募集活動の影響もあって、県の方でも「乗組員募集活動に対して1/2の補助を行う事業」や「新規就業者に対しての研修事業」といった新規事業ができ、より後継者や乗組員対策を行いやすい環境になりました。

新しい人々が漁村に入ってくることを不安がる人もまだまだ大勢いますが、漁業者や新規就業者が減少する中で、県内の漁業関係者にこの難しくて切実な問題を再認識してもらい、各地で対策検討会等が開かれるようになったことは、非常に良かったと大島の青壮年部員の間で話しています。

7. 今後の課題や計画と問題点

今回の「漁業者募集」は初めての試みでしたが、各機関の多大な協力により、大成功を納めることができ、また波及効果もみられ、予想を遙かに上回る好結果となりました。

しかし、数年後には高齢化により、再度人数の確保を迫られる時が訪れます。そのためのために今回の問題点と対策を話し合った結果、次のようになりました。

①住宅確保の問題

今回の最も大きな課題として”島という条件からくる住宅確保の問題”がありました。現在、島では入居できる住宅が1軒もなく、これについては昨年度から村役場に村民アパート等の建設を陳情しており、今後ともその実現に向けて努力をしていきます。

②採用時の問題

最初の募集では求人広告に掲載後、面接試験で選考し即採用といった形式をとりました。結果的にはうまくいきましたが、これについて乗組員の中から「採用前に1週間程度の体験漁業を行ってもらい、本当にこの漁業に就きたいのか確認をした方が良いのでは」との意見が出ました。そこで、後から採用した方については実際に体験漁業を行ってもらいました。その結果、応募者の熱意や適性等を判断するのに非常に役に立ちました。今後の募集にあたっては引き続き体験漁業を実施していきたいと思えます。

これからもさらなるまき網漁業乗組員の確保、経営の安定・向上に向けて皆で力を合わせて頑張っていきたいと思えます。